

断崖絶壁の紅葉と大峡谷の絶景 黒部峡谷・下の廊下

実施日 2018年10月17日(水)～19日(金)
 天候 晴れ
 リーダー 峯川 弘子
 参加者 中村友子、峯川弘子 計2名
 費用 JR16,820円(静岡起算) 扇沢バス
 1,360円 関電トロリーバス,540
 円 黒部峡谷鉄道1,980円 富
 山鉄道630円 宿泊費20,260円
 入浴500円 合計42,090円

タイム 10/17 扇沢(14:00)黒部ダム(1
 4:25)ロジックろよん
 (15:40)泊
 10/18 ロジックろよん(5:30)
 旧日電歩道入口(6:10)
 内蔵助出合(7:30)別山
 谷出合(8:38)白竜峡(10:
 46)十字峡(12:10)S字峡
 (13:10)仙人ダム(14:10)
 阿曾原小屋(15:30)泊
 10/19 阿曾原小屋(6:40)折尾谷
 (8:16)大太鼓(9:30)志合
 谷(9:52)蜷谷(10:53)パノ
 ラマ台分岐(12:05)櫛平
 駅(12:35-13:10)宇奈月
 温泉駅(14:28)温泉入浴
 (16:05)黒部宇奈月温泉
 駅(16:46)東京駅(19:12)

10 / 17

10月に入りようやく秋晴れが続く、
 関電トロリーバスで黒部ダムへ、明日
 の為に歩道の入口を確認する。係員さ
 んが早朝出発の場合はトンネルのこち
 らからと手慣れた様子で説明してくれ
 た。下見で歩いていくグループがいる。
 でも「剣・立山」の地図には「近道あ
 り」と記載があった、それに予想して
 た方向と違う？ダムへ向かうとヘルメ
 ットの作業員の方が、もう一度聞いて
 みる。やはりさっきと同様トンネルか
 らと言う。が、話の最後に「本当はこ
 こからその階段を下ると道があるんだ
 よ。」最初からそれ言ってえ～、「鎖と
 バリケードしてあるけどそれを乗り越

えて行けばいいから」こっそり教えて
 くれた。聞くと一般観光客が入ってし
 まうのを防ぐ為とのこと、あざーっ
 す！入口を確認しロジックろよんへ、
 改築したばかりで快適な宿でした。

10 / 18

黒部ダムの横を初めて降り、バリケ
 ードを乗り越える。「これってばあさ
 んのやることじゃないよねー」二人で
 大爆笑！進むと前方からロジックにいた
 2組が次々に来る、え？ダムに戻るよ？
 どうやら私達より30分前に出発してト
 ロリートンネルから歩いて標識を見落



として間違えた様だ。
 こぶし会は前日の聞
 き込み捜査のおかけ
 で30分ショートカッ
 ト。

下って行くと「旧日
 電歩道」の小さな看
 板が、これだけで興
 奮する。そこから黒

部川へ急下降、放水しているダムの真
 下から橋を渡りヘルメットを装着しス
 タート。

峡谷の絶景はすぐに
 始まった。沢に降り大
 岩を越え真新しいハン
 シゴを登っては降りて徐
 々に高度を上げてい
 く、歩道も細くなって
 きた。緊張もあるが今
 日は山頂を目指す山行
 ではないしのんびり写真を撮りながら
 この絶景を楽しもう！



仙人小屋分岐の内蔵
 助出合を過ぎたあた
 りから黒部川の緑色
 と紅葉のコントラス
 ト、二人で歓声をあ
 げる、危険な道を歩
 いているのもつい忘
 れてしまいそう。
 歩道幅は落石崩れで5

0cm以下の所から最大80cmの所もある。ザックをぶついたりしてバランスを少し崩すだけで滑落間違いない。ワイヤーが付けられているのでそれを頼りに進む、廊下とはよく名付けたものだ。



追い越しや逆方向からのグループが来るとワイヤーをつかみ絶壁に体をすり寄せてすれ違う。

ダムから5時間半、十字峡に到着、黒部川がクロスした形に見えた。S字峡では見下ろした黒部川が

はっきりS字状になっている、ネーミングに納得！午後になって少し雲行きが怪しくなってきた。

ようやく仙人ダムへ到着、小説「高熱隧道」の舞台だ。ドアを開けてお邪魔しま〜す！地熱で温かい、進むと雲切新道への分岐があった、ここから行くのか〜。



古の建設の苦勞に思いを馳せながら15分程で出口に到着、雨が降っていた。

あと小一時間で阿曾原小屋、歩き出すとすぐに雨は止んだ。標高差は少ないが朝から休憩含め10時間、ようやく阿曾原小屋に到着した。

今日は布団2組に3人、空いてる方ですよとのこと。

念願の露天風呂に入りビールで乾杯♪小屋スタッフさんが、昨日は櫛平から来た50代男性が滑落して死亡したと教えてくれた。明日も気を抜かず注意して歩こう！

10 / 19

今日の歩行は5時間、朝食を食べ温ま

って出発。

小屋からの登り返しに息を切らし3時間弱で大太鼓へ到着、テレビでよく紹介されている場所だ。Uカーブになっているので歩いてきた断崖絶壁の歩道を反対側に見渡せる。こんなところをよく切り開いたものと先人達の偉業を改めて実感する。



頭上も圧迫感のあるヘツリを進んでいよいよ150mのトンネルに着いた。

ヘッドランを頼りに水をたまりをジャブジャブ歩く、なかなか長い。

出口から蜷谷を過ぎると右手に五

竜、唐松、不帰嶮のギザギザが青空の中その美しい雄姿を見せてくれた。そして櫛平への分岐、ここで水平歩道は終了。



急降下の一般登山道で櫛平駅へ、トロッキ電車を楽し



みながら宇奈月温泉へ下山した。

※この時期、黒部山塊で開けている宿はロジックろよんと阿曾原小屋だけ、小屋は解体して毎年建てています。また厚労省との約束で毎年数千万円かけて廊下を整備されている関電、本当に感謝です！！

(記&写真・峯川 弘子)